

A News Letter of Living

住まいと暮らしの情報

平成16年2月号



画 むげんてつや 先生

ごあいさつ

時の過ぎるのは早いものですね。2月4日は立春です。寒さも緩み始めて、住まいをつくる現場でも日中はぽかぽかと暖かくなります。少し、力仕事でもすれぼうっすらと汗をかきます。この季節は天候が安定していて毎日が仕事日和です。今年はとても個性的な住まいを手がけています。毎日が楽しみで意欲が湧いてきます。あたりまえのことですが、建物や住宅の出来具合は職人さんをはじめ、その工事に関わる人たちに依存しています。どんなに立派な監督がいても、口頭での指示や指導をするくらいで、基本的には出来栄に関与することはできません。建物は人が物を組み合わせてつくっていきます。木造住宅は工業生産された住宅とは違いほとんどの作業に人が関与します。そこで、現在の工程の人が次の工程の人のことを考えて仕事するかどうか、というのがとても大切になってきます。単に、自分の仕事分担をこなせばいいという発想を超えて、完成度の高い、あるいは精度の高い、住まいでいえば出来栄のよい建物をつくるのは、物を組み合わせるという作業と同時に、日頃から職人同士、さらには作業をする人の気持ちを組み合わせることがとても大事だと思います。住宅産業研修財団の「大工育成塾」は国土交通省の支援を得た国家プロジェクトです。職人の技術と心を伝えていくために。ただいま二期生募集中、弊社も会員です。秋葉タースケ